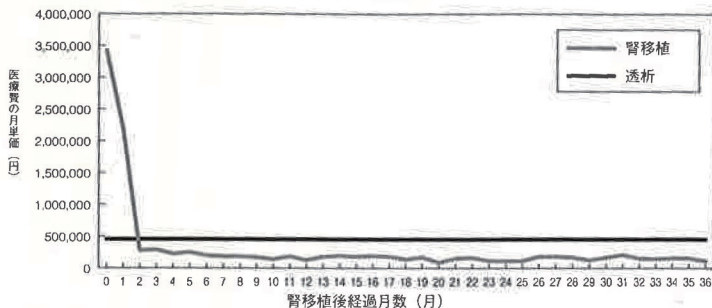


図表2

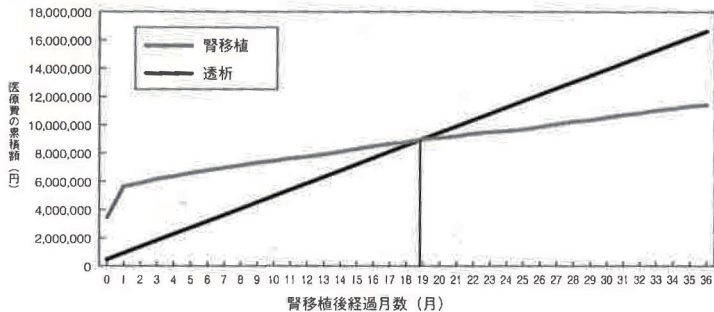
透析と腎移植の月単価

腎移植実施月とその翌月は月単価が透析よりも高くなる。それ以降は透析の半分程度の月単価になる。



透析と腎移植の医療費累積額

腎移植実施後18ヶ月後までは腎移植の方が累積額は高くなるが、それ以降は透析を続けるよりも腎移植をしていた方が累積額は低くなる。



資料提供：公益財団法人とさわ会常磐病院

る。万波医師が修復腎移植を手がけてからすでに十二年が過ぎ、医療技術は飛躍的なインベーションのなかにあった。常磐病院の新村浩明院長は、「現在、医療用ロボット『ダ・ヴィンチ』による部分切除が保険適用になり、きわめて精緻な手術のため修復腎のための全摘はもはや前提にはならないのです」と断定している。

万波医師の先端的な試みは、よってたかつて否定されているうちに、医療用ロボット「ダ・ヴィンチ」の時代へと移り変わっていたのである。

どこかで見た光景である。一九六八年に日本で初めての心臓移植手術が札幌医大での和田寿郎教授のチームで行なわれた。メディアは日本の医療が世界水準に達したといっせいにめてはやした。しかし術後八十三日目にレシピエントが死亡すると、風向きが変わる。ドナーである溺死した大学生の脳死判定に客観性があつたのか、など疑わしい点があつたとして刑事告発されたのである。ここでも万波医師と同様に、和田教授に対するメディアの集中攻撃、医学界からは嫉妬なのか何なのかよくわからない黙殺、脳死をめぐる倫理学者や宗教学者たちの混乱がつづいて、日本の移植医療はこの躓きによって中断し、「三十年遅れた」と評されている。

チャレンジに多少の瑕疵があつたとしても既得権益層がすぐに否定に走る、そういう体